

LDLアフェレーシスを施行したステロイド抵抗性巣状系球体硬化症の1例におけるリポ蛋白組成の変化

東口 佳苗, 大西 久美, 佐藤 伊都子, 林 富士夫, 向井 正彦, 河野 誠司
熊谷 俊一 (国立大学法人神戸大学医学部附属病院 検査部)

<はじめに> LDLアフェレーシス (LDL-A)とは、体外循環によりVLDL, LDLなどのアポB含有リポ蛋白を吸着除去する治療法で、通常家族性高コレステロール血症ホモ接合型などの難治性高脂血症に用いられるが、難治性ネフローゼ症候群である巣状系球体硬化症 (FGS)においても有効性が言われている。今回、我々はステロイド抵抗 FGS に対して LDL-A を施行した 1 例を経験し、各リポ蛋白の組成の変化を経過観察したので報告する。<方法> リポ蛋白泳動は、コレトリコンボ (株)ヘレナ研究所)、生化学項目は、TBA-200 FR NEO (株)東芝)にて測定した。<症例と経過> 13歳、女性。2月19日ステロイド抵抗性ネフローゼ症候群の疑いで当院に転院となる。入院時検査結果、尿蛋白 23.3 g/day TP 3.4 g/dl、ALB 1.7 g/dl、TC 612 mg/dl、TG 606 mg/dl、BUN 97 mg/dl、CRE 1.15 mg/dl。3月1日より、ステロイドパルス療法を2クール施行するが腎機能改善せず。腎生検の結果、FGSと診断され4月15日よりLDL-Aを5回施行した後、再度ステロイドパルス療法を1クール施行。5月12日には尿蛋白 4.7 g/day TP 5.6 g/dl、ALB 3.5 g/dl、

TC 245 mg/dl、TG 302 mg/dl、BUN 15 mg/dl、CRE 0.49 mg/dlと改善した。<結果> 1回目のLDL-A前後で、LDL-Cは240から61 mg/dl、LDL-TGは162から42 mg/dl、VLDL-TGは17から61 mg/dlと著しく低下した。HDL-Cは119 mg/dlとVLDL-TG(194mg/dl)の上昇が顕著であった。その後、LDL-Cは50~140mg/dl、LDL-TGは47~175 mg/dl、VLDL-TGは92~316 mg/dlを上下しながら推移し、5回のLDL-A施行後(3週間後)には、LDL-Cは97mg/dl、LDL-TGは42 mg/dl、VLDL-TGは194 mg/dlとなった。ステロイドパルス療法施行後は、HDL-CやLDL-Cの上昇が認められたが、尿蛋白は減少しTRの上昇も認められ、ネフローゼ症状は改善した。<まとめ> 今回、リポ蛋白を選択的に除去するLDL-Aにおけるリポ蛋白組成の変化を、コレトリコンボによって把握することが可能であった。